就任あいさつ

特定非営利活動法人
金光教平和活動センター

理事長　杉本 健志

このたび、竹部理事長の退任にともない、後任を務めることになりました。

私がはじめてフィリピンを訪れたのは１９９５年でした。当時は排気ガスの規制がなく、頭が痛くなったものでした。その頃に比べ、現地は経済発展をとげ、日本にはない巨大なショッピングモールがいくつもできました。しかし、ＫＰＡＣが支援している地域はあまり変わらず、貧しい人々は増えています。文字通り、格差が広がっているのです。

ＫＰＡＣは、１９８８年から、現地の人々が自立するための支援、具体的には貧困から脱するための教育支援を行ってきました。設立３０周年の折にも紹介しましたが、ＳＲＤコンコウキョウセンターの卒業生が２７人も私立有名大学の奨学生になるなど、成果も出ておりますが、地域が豊かになるにはほど遠いのが実情です。

本年６月には、駐日フィリピン大使が、肥料や輸送費の高騰を理由にバナナの小売価格を適正な水準に引き上げてほしいと要望を出し、ニュースでも取り上げられました。ＫＰＡＣが支援する地域にも、大規模農園の小作では家族を養えないとマニラに出てきてバラックで暮らす人々がいます。金光教祖は「人が人を助けるのが人間である」と教えています。どうぞ、これからも日常の信仰実践としてＫＰＡＣの事業にご協力いただきますようお願い申し上げます。

退任あいさつ

日常の平和実践としての
「一食をささげるチャリティー」

竹部 晴雄

去る６月１２日、教団独立記念祭は祭場への入場制限が２年ぶりに解除され、まことにうれしくありがたいお祭りでありました。私事、２０１０年９月にＫＰＡＣ理事長に就任し、１１年余の長きにわたる御用を終えるにあたり、関係各位、皆様方のお祈り添え、ご支援があってのこと、まことにありがたく厚く御礼申し上げます。

就任してすぐフィリピンの各幼稚園を訪問しました。その際、街で遊んでいた子どもの写真が、「一食をささげるチャリティー」ポスターに掲載され、その笑顔がいつも心に浮かびます。この子どもたちが次代の社会を担うため、より良い教育を受けるために始めた活動です。 金光教祖様の「人にはできるだけのことをしてあげ、人に物をあげたくてしかたがないという心を持ち、自分だけよいことをしたいというような心を持つな」とのみ教えは、日常の平和実践であります。「与えて幸せ。ささげてうれしい」の生き方で「一食をささげるチャリティー」に取り組み、世界平和に貢献したいと存じます。２月に起きたウクライナ戦争が早く終結し、世界の人々の平和と安心が実現されることを願っています。

長年、事務局長、専務理事を務めて来られた杉本健志先生は、この平和活動センターの活動を熟知されています。いろいろと厳しい世界情勢のなか、ＫＰＡＣの新たな展開が出てくることを祈念し、退任のご挨拶といたします。